Vol.11-1
発行日：2013年3月

JMAC Quality Management Quarterly

～品質と経営について考える～

発行：㈱日本能率協会コンサルティング　JQMS編集部

「品質の掟（オキテ）」にご回答いただいた皆さまへ

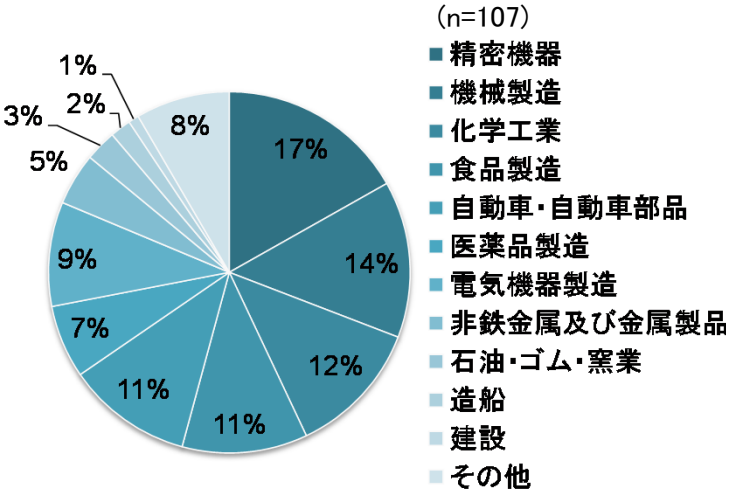
この度は「品質の掟（オキテ）」に関するWebアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
ご回答いただいた皆さまには、Webアンケートの詳細結果をご報告いたします。

◆ 回答社数・掟の総数

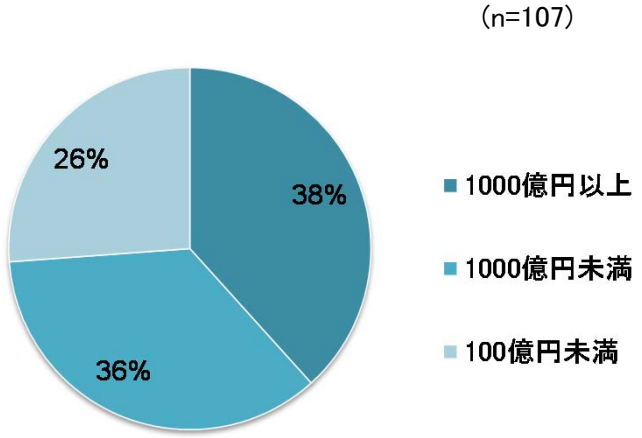
回答社数	〔　105社　〕	※「品質の掟」無と回答した企業を含めると計107社
掟の総数	〔　259個　〕	※複数回答

◆ 属性

〔業種〕



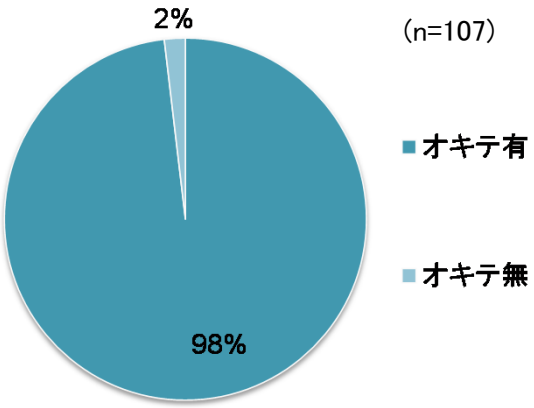
〔売上規模〕



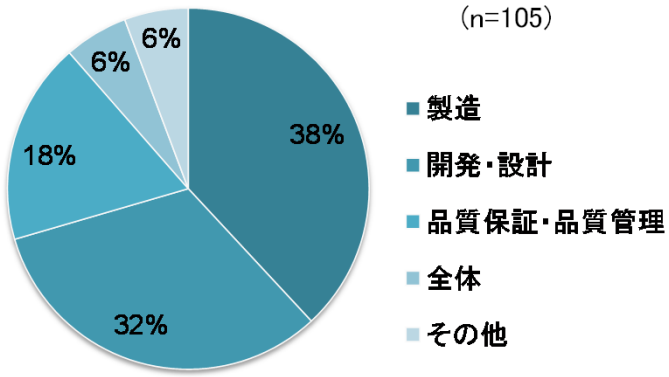
回答企業は精密機械が17％と最も高く、次いで機械製造が14％、化学工業が12％となっています。
売上規模については1000億円以上と1000億円未満がともに約4割を占めています。

◆ 品質の掟の実態

〔品質の掟の有無〕



〔対象部門〕



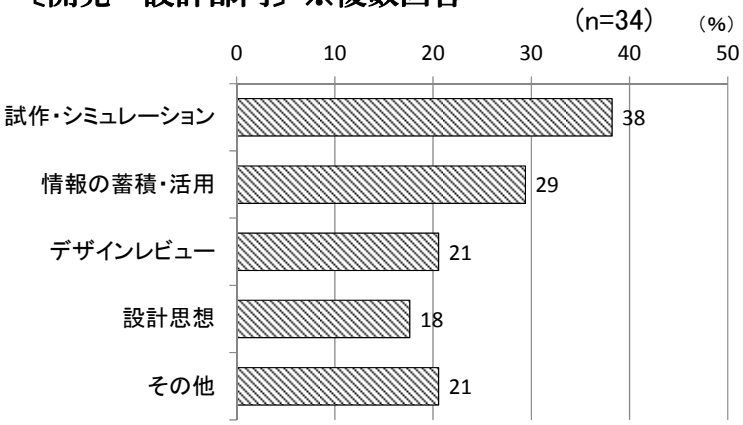
回答企業の98％が品質の掟があると回答しています。品質の掟あると回答した部門としては、製造部門が38％と最も高く、次いで開発・設計部門が32％、品質保証・品質管理部門が18％となっています。

©2013 JMA Consultants Inc.

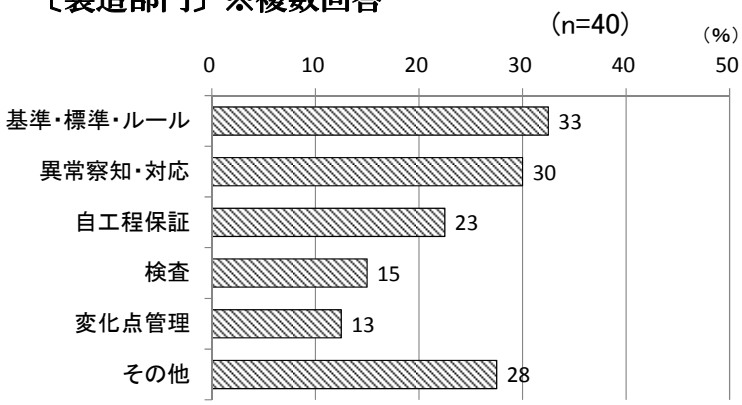
㈱日本能率協会コンサルティング　JQMS編集部
〒105-0011　東京都港区芝公園3丁目1-22　日本能率協会ビル1階　TEL：03-3434-0982　FAX：03-3434-2963　E-mail：Quality_Management_jmac@jmac.co.jp　URL: http://www.jmac.co.jp

◆ 品質の掟の実態（対象部門別）

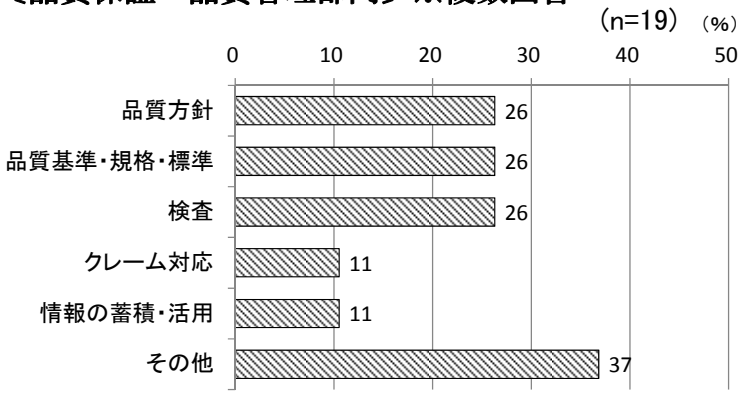
〔開発・設計部門〕※複数回答



〔製造部門〕※複数回答



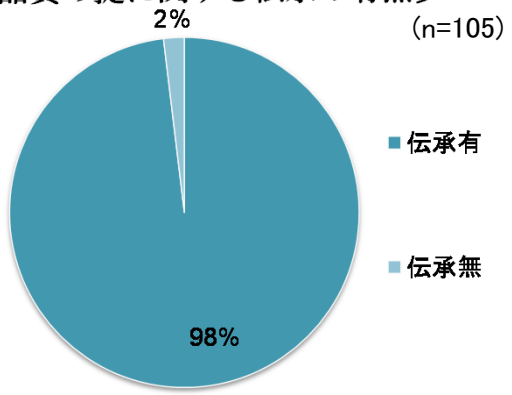
〔品質保証・品質管理部門〕※複数回答



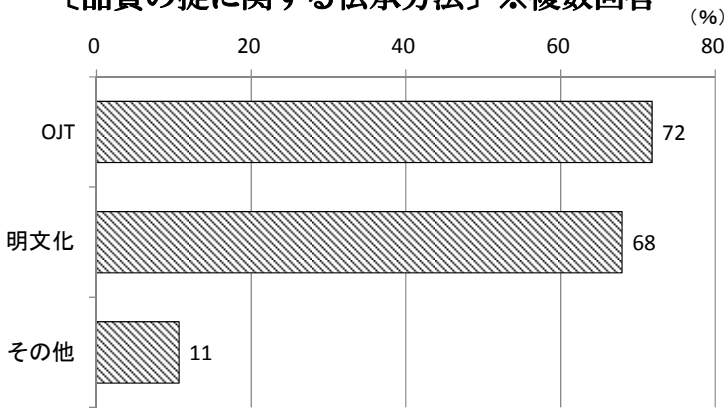
開発・設計部門は、試作・シミュレーションが38％と最も高く、次いで情報の蓄積・活用が29％となっています。
製造部門は、基準・標準・ルールが33％と最も高く、次いで異常察知・対応が30％となっています。
品質保証・品質管理部門は、品質方針、品質基準・規格・標準、検査がいずれも26％を占めています。

◆ 品質の掟に関する伝承の実態

〔品質の掟に関する伝承の有無〕



〔品質の掟に関する伝承方法〕※複数回答



回答企業の98％が品質の掟を伝承していると回答しています。その方法としては、OJTが最も多く、次いで標準類等における明文化となっています。その他としては、トップマネジメントによる訓話、データベース化、小集団活動を通した伝承などがあげられます。回答企業の多くはOJTと標準類等における明文化のいずれにも取り組んでいるといえます。

©2013 JMA Consultants Inc.

㈱日本能率協会コンサルティング　JQMS編集部
〒105-0011　東京都港区芝公園3丁目1-22　日本能率協会ビル1階　TEL：03-3434-0982　FAX：03-3434-2963　E-mail：Quality_Management_jmac@jmac.co.jp　URL: http://www.jmac.co.jp

◆ 代表的な品質の掟（Webアンケート結果より）

開発・設計部門

- 実製造品による確認
- 実稼働による確認
- 引用や流用設計においても十分な設計検証を行うこと
- 検図をしっかり行うこと
- 設計時に疑念があれば、自分で確認（試験）すること
- 一人で決めない。専門家の知識を入れること
- 冒険案は腹案（量産までの保険案）とセット
- 設計者は必ず「結果の予測」を行うこと。試作結果を事前に予測し、実験結果との相関を定量的に把握する。差があれば次の施策にフィードバックすること

製造部門

- まずは一人ひとりが自分の仕事の結果を確認すること
- おかしいと感じたら、すぐに生産を止めて連絡すること
- 隠すこと、気づかないこと、報告が遅れることについて厳しく指導
- 作業はやりきること
- 作業が変更されたら確認すること
- “だろう！！”判断しないこと（＊判断・判定を明確に行う）
- 官能をおろそかにしないこと（＊人の五感を大切にする）
- 三現主義(現場、現物、現実)を実行すること

品質保証・品質管理部門

- 検査部門と生産部門を分離すること
- 検査員の手直し厳禁
- 異常時の自己判断禁止（「止める、呼ぶ、待つ」の徹底）
- クレーム実施対策は1年後に再実施（定着確認）
- 他部署（上流工程）の文書の記載内容で、不明点があれば見過ごさず確認すること
  （＊業種固有の表現が含まれていたため、一部変更させていただきました）
- 変更には必ず副作用があり、副作用を明確にすること
- お客様目線でなく、お客様の立場を判断基準とすること
- 設計の評価サンプルはできるだけ複数個作成すること（1個だけの評価ではだめ）

©2013 JMA Consultants Inc.
㈱日本能率協会コンサルティング　JQMS編集部
〒105-0011　東京都港区芝公園3丁目1-22　日本能率協会ビル1階　TEL：03-3434-0982　FAX：03-3434-2963　E-mail：Quality_Management_jmac@jmac.co.jp　URL: http://www.jmac.co.jp